

日本語教育支援センター主催 教育研究創成センター共催FD

外国にルーツを持つ子ども達への 教育の必要性を大学全体で認識する

Part 2

愛知県は、文部科学省が実施する「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」において、日本語指導が必要な児童生徒数が全国最多です。この「日本語指導が必要な児童生徒」の定義には、日常会話だけではなく、学年相当の教科学習内容の理解が難しい児童生徒も含まれます。

本講演では、昨年度に引き続き、横浜市の日本語支援事業に関わっておられる横溝亮先生を講師としてお迎えし、具体的に在籍学級での学びを保障するために、学級担任や教科担任として何ができるのか、また子どものアイデンティティとどのように向き合うべきなのか、実践例をまじえてお話しいただきます。

講師 **横溝 亮** 氏

- ・ 横浜市教育委員会事務局
- ・ 文部科学省外国人児童生徒教育アドバイザー



講演テーマ

外国につながる子どもたちを支える・高める
在籍学級での指導・支援

令和7年

1月

8日(水)

13:30~15:00

(受付13:00~)

次世代教育イノベーション棟 AUEカキツバタホール

開催方式：対面方式

参加対象：教職員、本学学生

【問い合わせ先】

日本語教育支援センター

外国人児童生徒支援リソースルーム



0566-26-2219



gendaigp@aecc.aichi-edu.ac.jp